

# 思い出の写真シリーズ

## 審判員としての思い出

### 第11回

長野市陸上競技協会 審判部長 西片功

「競技で世話になった者は、その分、審判員として、指導者として、恩を返すことが筋道だ」と先輩の先生方に言われ、この道に入って早や40年の月日が立ってしまった。

当時、高校へ勤務し、陸上競技部の指導と一緒に、よくここまで来たものだ、自分ながら驚いている。

この間に数々の全国大会が長野県で開かれ、真剣に努力したことが思い出される。

まず、昭和51年、全国高等学校総合体育大会（長野市）。昭和53年、国民体育大会（松本市）。続いて全国身障者大会・全国実業団大会等、矢継ぎに計画され、県大会、地区大会、リハサル大会を入れると年間50日近く審判に携わって来た。

私の与えられた部署は時計主任で、他県の競技会に研修に出掛けたり、自分の部署の審判員との意気疎通を図ったり、毎日が陸上競技に費やされた。写真のような審判台に、大勢の審判が配置されるので、皆さん



の癖、効き目まで把握して審判編成をしたこともなつかしく思い出される。

まず、競技会で大切なことは、審判員の横のつながりであり、他の部署との連携には心をくばるとともに、審判台に乗っている決勝審判員との協力には、細心な注意を払ったことは、今でも忘れることができない。なんといっても、あの審判台に24名の審判員が上がり、暑い日も、寒い日も、雨の日も、一日中審判をしたのだから、今考えてもびっくりする。

時代が替わり、今となってはあの審判台もない。いろいろ変化しつつある陸上競技会も、これからどのように変わっていくのだろう。しかし、多くの仲間、多くの友達は、今も変わらず声を掛け合い真剣な態度で審判を続けて行くことであろう。先輩から受け継いだこの精神は、若い人達とともに守り続け、一層よき競技会が開催できるよう努力し続けなくてはならないと思う。

## 編集後記

長野市民新聞 2006年6月8日（木）を見ていたら、長野市体育協会、功績者表彰式が開催されました。鈴木文雄先生、功労、勲功として、佐々木健太さん、加藤未有さん、陸上競技に関するものとして誠に栄誉そのものです。ここに祝福と益々のご発展ご活躍を心からお祈り申し上げます。

さて、今年も長野マラソンを皮切りに各競技会が目白押しに実施されて参りました。これからも、暑さに負けず、身体のコンディションには十分注意して、選手も先生方も頑張って競技会に集中して

行きましょう。

ところで、今年要覧はかなり売れ残っています。やはり個人情報関係で、要覧そのものの魅力と価値、あるいは、そう必要なくなったのか、世の中、不景気で、買い控えているのかと考えています。県陸協に協力したい方、または、今だ手元に無い方は、一部1,500円、宜しかったらお買い求め下さい。

申し込みは広報部長若松までお電話願います。TEL.026-228-4562

平成18年6月

広報部長 若松軍蔵

SHINANO MATE  
LONGEVITY MATELON SUN PROTECTANT OF SKIN

ATHLETIC UNIFORM

株式会社 **しなのメイト**

〒389-0606 埴科郡坂城町大字上五明992-2  
PHONE (0268) 81-1336  
F A X (0268) 81-1337

# 動き

題字の“動き”は長野市陸協三代目会長 山浦保氏の書で、山浦会長の頃、市陸協会報紙として何号か発行されていました。

平成18年6月22日

発行所 長野市陸上競技協会  
発行人 浦野義忠  
編集人 若松軍蔵

長野市駅伝部としての大目標は、やはり「縦断駅伝優勝」ですが、そのために、春はどうするかを考えた時に、距離が短い市町村駅伝組と長野マラソン組とグループ分けをして冬期練習をすることにより、7連覇を目指す駅伝に十分なチーム作りをすることを狙いました。

冬期練習は順調なスタートでしたが、仕事等で練習がすすまなかったり、エースだった西塔選手が出身地での就職が決まったことでチーム離脱が決まり、徐々に、チーム編成が難しい状況になってきました。そんな中、大久保選手のチーム復帰、地元を思う太田、市川両学生選手が長野に戻ったの意気表示してくれたことで、チームに大きな力がプラスされました。しかし、大久保選手はシーズン3本目となる長野マラソンへの招待出場が決まっており、体調が整うかどうか、また、他チームの若手選手の順調な調整振りが耳に入るなど、不安要素は日増しに大きくなるばかりでした。

いざレースが始まると、加藤選手が区間賞の好スタートを切り、一時4番手まで順位を落としたものの、選手9人の力の結晶で、7連覇を勝ち取る事ができました。

今回は、中・大学生と、31・32歳の社会人でのチーム構成でしたので、今後さらに連覇をしていくためには20代の若い社会人の育成がカギだと課題を持っています。しかし、まだベテラン選手も若い選手に負けないという気持ちが強くあり、そんなチーム内の切磋琢磨を大切に練習を重ねていきたいと思っています。

駅伝部 主将 前島啓一

## 市町村対抗駅伝 七連覇達成



5月7日に松本市で、市町村対抗駅伝が行なわれ、私は、長野市の一員として走らせて頂きました。そして、全員の頑張りの結果、優勝することができました。しかし、これは何もその日一日のがんばりの結果ではなく、その日までの長い期間の努力の積み重ねが導いたものです。また、この努力するという事は、個人だけでできるものではありません。多くのバックアップを頂いてできるものだと思います。そのバックアップの中でも、市長には本当に多大な助力をして頂いていると思います。宿舎等の費用などの資金面だけでなく、市をあげて応援して下さいという精神面でのバックアップ、そういったものは、本当に元気や力を私達に与えてくれるものであると感じます。そういった全てのものが要因となって今回の優勝、ひいては7連覇達成という偉業が、成し得たのではないかと思います。

その後、5月11日に私達は市長に優勝報告をさせて

頂く機会を設けて頂きました。私は、市長にお会いできるということで、とても緊張しておりましたが、実際にお会いした市長は、とてもおだやかな方で、何だか緊張していることには変わりはないのですが、力んでいたものがすっとひいていくような感じがしました。そして、「この方がいつも私達を支えて下さっている方なのだなあ」とひしひしと感じました。また、市長が、今回の結果を評価して下さい、頑張って頂いた時に市長だけでなく、長野市の方々全てに言って頂いた様な気持ちがして、とても喜びを感じました。それと共に、私達が今まで努力してきたものも認められた気がして、強い達成感も湧いてきました。この時の気持ちは、何とも言いがたいものがあり、次の県縦断駅伝でも是非とも味わいたいと思いました。そのために、市長はじめ長野市の方々へのバックアップに感謝の念を持ちながら、より一層の努力をしていきたいと思っています。

信州大学 菅辺沙織



# 新年度を迎えて

長野市陸上競技協会 会長 伊藤利博

本年度のスタートも長野マラソンから始まりました。心配された天候にも恵まれて、特に大きな事故もなく無事に終了することができました。これも、長野マラソンを支えて下さる長野市陸協の会員の皆様方のお陰だと深く感謝申し上げます。長野市陸協会員の71%の皆様方が、早朝より最後まで審判業務に当たっていただき、大変心強く思います。審判出席で二番目に多い支部が38%ですから、いかに大勢の方々にご協力いただいているか良くわかります。また、今回の大会は、長野陸協の責任者という立場でもあり、終了するまで気を緩めることができませんでした。しかし、長野市陸協の運営委員の方々の力強い支えにより、早い段階から準備を進められたことが、大会成功に結びついたのではないかと、心より感謝申し上げます。

五月の初めに、信毎建設欄にこんな記事が掲載されました。北海道より長野マラソンにいられた選手が、前日タクシーに乗り、運転手さんから大変親切にいただき、当日、スタート地点で、頑張れ何何さんと書かれたプラカードを掲げて応援してくれ、また、先々でも応援してくれて、大変感激したという内容でした。私もこの記事を読み、大変感動しました。長野マ

ラソンが、人気投票で一位になったということは、このような長野市民の皆様方の陰の力が大きいということを実感しました。我々審判員は、一番中枢の場にいるわけですから、長野市民に負けないような、暖かい気持ちを持って、長野マラソンを支えていこうではありませんか。これからご協力の程、よろしく願います。

競技力の向上につきましては、いろいろな場面で申し上げてまいりましたが、最近、若い先生方が熱心に生徒達を指導して下さっている光景を目にして、大変嬉しく思いました。二月末に、技術講習会の様子を東和田競技場で見ることがあり、北信地区の先生が、各パートごとに別れ、熱心に指導されており、競技場全体が活気にみなぎっていました。まだまだ冬の寒い日差しでしたが、指導者の熱い指導により、寒さも吹っ飛ばしてしまう程の状況を見て、私達に続く後継者が、脈々と生き続けていることを感じて、爽やかな嬉しさが込み上げてきました。先般の市町村駅伝でも、七連覇の偉業を達成してくれました。

今年も、会員の皆様方の益々のご活躍と、小中高生、一般競技者の活躍を心より願っております。

## 新 会 員

長野ろう学校 友田利男

長野商業高校 工藤雅史

今年度より、長野市陸上競技協会の会員となりました友田利男です。今年度、審判員資格を取得し、入会となりました。

私は、高校から陸上競技を始めて、今年で9年目になります。まだまだ経験が浅く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしく願います。

これまでは、競技者として、陸上競技に取り組んできましたが、これからは、大会等を支える立場からも陸上競技に携わっていくこととなります。そのような立場の者として頑張っていきたいと思っております。

長野市陸上競技協会の先生方には、高校時代から、(会での審判、技術指導など、様々な形で)お世話になってきました。今後は、私も、その立場に立つことになるわけですが、大会での審判員としての仕事等、まだまだ覚えなければならないことがたくさんあります。

今年度もいくつかの大会の審判員をさせていただきましたが、他の審判員の方々から学ぶことが多くあり、大会ごとに勉強させていただいている状態です。

このような私ですが、長野市陸上競技協会の一員としての自覚を持ち、少しでも力になれるよう頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



# 第9回 ホープさん ★長野工業高等学校★ 西澤直希★

長野工業高等学校の西澤直希です。種目は棒高跳びをやっています。中学1年の夏休みから始めました。入部当時は、自分に合う種目が分からず、スプリント系の練習をしていましたが、どうしても棒高跳びをやりたいと思い、先生にどうしてやりたいかを伝え、棒高跳びを始めました。

中学2年の石川県の北信越大会の時は「記録なし」に終わり、悔しい思いをしました。中学3年での北信越大会でも、思うような記録を出すことができませんでした。

高校に入り、中学とは全く違



う練習メニューで、記録を出した先輩もいて、これならいい記録が出せるかもしれないと思いました。

1年の大会では、目標にしていた4mを跳ぶことができ、新たに目標を先輩の記録である4m70cmに設定しました。そして、今回の県大会では、自己ベストの4m50cmを跳ぶことができ、目標に1歩近づけることができました。

福井県での北信越大会では、何とか結果を出し、インターハイを目指したいと思っています。

最後になりましたが、日頃より競技会を支えて頂いている長野市陸協の皆様方に感謝申し上げます。西澤直希の言葉とします。

## 鈴木武兵衛先生を偲んで

長野市陸上競技協会 顧問 古澤久四郎



在りし日の鈴木先生 前塚田長野市長と共に

鈴木先生の実家は中御所岡田で、私の家は中御所の南荒木で、市営プールに行くには先生の家の前を通るのですが、ここが先生の家と知ったのがいつか今考えてもわかりませんが、先生の家は今でも正確に浮かんできます。

鈴木先生が大学を卒業されて、現長野西高校、屋代高校、長野高校等教員の時代は、バスケットボールの審判員で活躍されていました。私も、審判を手伝い、先生や新井氏からご指導を受けた頃から一層鈴木先生と親しくなり、飲会をするようになり、その時先生が話した事「僕は、現在まで陸上をしてきたが、先生になったらバスケットボールの監督にされ、非常な苦勞をして指導法等研究したおかげで、最高の審判資格になり、高校の代表となり、諸会議に出席した」との事です。

昭和51年全国高校陸上大会が長野市で開催される3年前位に、先生は陸上競技の審判になり、選手始め審判員の技術や精神面の教育を熱心に指導下され、51年に終身一種の審判員になり、顧問として平成16年までいろいろな面でご協力頂いておりましたが、身体的理由で顧問を引退され、私達は先生が一日も早く元気になられることを願っておりましたが、今年4月15日早朝、誠に残念でしたが、92歳で亡くなられ、驚くと共にただただ先生のご冥福をお祈りするのみです。

教え子小池氏の一言「長野高校で体育を教わった鈴木先生は非常に熱心な先生」でしたと。(75才)先生が残された書物「方言と川柳」「焦らず厭きず諦めず」二冊 鈴木(武平)武兵衛 非売品

## 折井治先生を偲んで

長野市陸上競技協会 副会長 依田邦夫



在りし日の折井先生 1992年山形国体で 長野県監督、コーチと共に

折井治先生 享年76才 平成18年5月7日死去。良き友を失った。ここに先生の思い出を記します。

(教職について)昭和23年、長野青年師範(信大)に入学、卒業後各中学校に勤務される。私との出会いは、私が上山田中学校、先生は

屋代中学校勤務、保健体育教科会研究会から。その当時、先生はメグロのカブト虫のようなライトカバーのオートバイを乗り回す。その後、超デラックスのマークIIに乗る。私は軽である。研究会等にはよく乗せてもらう。どちらに乗っても格好良かった。

(陸協の関係)審判員としての付き合いは、53国体の時、先生は市陸の理事。その後、県陸協審判委員会の副委員長、市陸協の審判部長を。また上越市、長野市の親善の信越駅伝、県縦駅伝(青木峠廻り)の移動審判、私と共に主としてドライバーで(技術優秀)両大会に頑張る。私といつもベアで。

(人柄について)物腰の柔らかい人柄でいつもユーモアリスト。オリンピック等の視察でも先生とはアウンの仲だった。とにかく明るく楽しい先生。また研究熱心、努力家です。在職中に上京。社会保険労務士の講習に参加、資格を取得。定年間近の頃にはカイロプラクチックの受講をし、資格を取得、カイロプラクチック研究所として開業する。多数患者さんも来院したが、志半ばにして死去。多くの方々に惜しまれた。先生自身も残念であると思われる。とにかく惜しい先生を亡くしたことは残念であるが、これも天命と思われ。家族の皆様もさぞかしお力落しのことと思いますが、どうぞお元気で。折井先生どうぞ安らかに眠りください。南無阿彌陀仏。